

さとうきび生産農家の皆様へ

さとうきびの重要害虫であるイネヨトウ（メイチュウ）による被害が、中部地域においても発生しており、中部地域さとうきび増産プロジェクト会議では防除対策を呼びかけています。

イネヨトウは、年に5～7世代を繰り返し、幼虫は5月と9～10月に発生が多く、イネヨトウに加害されると芯枯れなどの生育不良になります。被害が集中的に起こるため、坪枯れを起こすこともあります。

農家は、イネヨトウが圃場に入っていないか確認及び点検をし、被害拡大を防ぐため、薬剤の散布を行ってください。

【防除法】

- 植付け・培土時・・・粒剤を植付けする溝や、株元にまいて中耕を行い、土に混ぜ込んでください。
- 生育時・・・乳剤を葉鞘内（葉のつけ根と茎の間）に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布してください。
- 株元、畝間に雑草が生えているとイネヨトウが発生しやすくなるので、除草をしっかり行ってください。

※1回散布しただけでは効果は薄いので、散布後2～3週間後に再度防除を行ってください。

詳しくは、『イネヨトウ（メイチュウ）の被害対策のお知らせ』を参照下さい。

さとうきび生産農家のみなさんへ

イネヨトウ (メイチュウ) の被害対策のお知らせ

中部地域さとうきび増産プロジェクト会議

さとうきびの重要害虫であるイネヨトウ (メイチュウ) による被害が中部地域においても発生しています。
 農家は、イネヨトウが圃場に入っていないか確認及び点検しましょう。
 被害拡大を防ぐため、薬剤散布等の防除対策を行いましょう。

1. 防除上注意すべき事項

- イネヨトウ (メイチュウ類) は葉の葉鞘内 (葉のつけ根と茎の間) にいます。
- 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布します。(図4)。
- 薬剤散布の際は、ドリフト (農薬飛散) 防止に努めるようお願いします。
- 粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まります。
- 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まります。



図1 芯枯れを起こしたさとうきび



図2 イネヨトウ幼虫



図3 圃場周縁部の被害



図4 葉鞘内へ十分に薬液を浸透させるために、鞘頭部から丁寧に散布す

2. 防除方法

農薬名	使用量及び希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
スミチオン乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布 (図4)
スミバッサ乳剤	1000倍	収穫45日前まで	4回以内	散布 (図4)
トクチオン細粒剤 F	15kg/10a	生育期、但し収穫90日前まで	2回以内	株元処理 <u>土壌混和</u> (※)
アドバンテージ S 粒剤	6～9kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
		培土時		株元処理土壌混和
アドバンテージ 粒剤	6～9kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
		培土時		株元処理土壌混和

※ 粒剤の土壌混和とは、植溝や株元に薬をばらまくのではなく、まいた後に中耕などを行い、土に混ぜ込むことです。

問い合わせ先 (中部地域さとうきび増産プロジェクト会議)

中城村役場農林水産課 TEL : 895-2131

JAおきなわ中城支店 TEL : 895-3265

沖縄県中部農業改良普及センター TEL : 894-6521

JAおきなわさとうきび振興部中部地区対策室 TEL : 973-9584

中部地区さとうきび生産振興対策協議会 TEL : 973-9481

翔南製糖株式会社 TEL : 856-5598

沖縄県病害虫防除技術センター TEL : 886-3880